

# 全国長南会通信 54号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX 0XX-XXX-XXXX

発行日 平成 28 年 7 月 5 日

## 長南紅花フェスティバル



6月19日(日)紅花まつり大祭の日、俊春会長と柏市で待ち合わせて、自動車で長南町へ出かけた。天気は晴れたり曇ったりで雨は降らず。おかげで、祭りはたくさんの人で賑わっていた。紅花の満開は15日ごろで、当日は、やや満開を過ぎた状態だそうだが、7万本の紅花畑は、長福寿寺を鮮やかに彩っていた。

森川氏や今井住職は、「今年の花が1番きれいに咲いている。」と話していた。



境内では、紅花リース作りや紅花染め体験などのイベントがあり、紅花餅、紅花おこわなどの実演販売も行われていた。

青宿 秀則



写真

- ① 長福寿寺と紅花畑
- ② 紅花を育てる会、長南町会議員の森川剛典さん
- ③ 長福寿寺住職、今井長秀さん

当日は山形県天童市商工観光課の人たちが視察に訪れており、紅花を育てる会の森川さんと一緒にお話をする機会をいただいた。

ボランティアの皆さんと昼食後、俊春会長と笠森寺を参拝。その後、柏市に向かって帰路に着いた。

柏駅前には来る参議院選挙の党首演説が行われており、大変混雑していた。



#### 写真

- ⑤ ザリガニ釣り
- ⑥ 紅花おこわ実演
- ⑦ ザリガニの釣果
- ⑧ 天童市商工観光課の人たちと
- ⑨ 笠森観音にて



# 紅花ロマン

長福寿寺 今井貴勝 (勝子)

## 人と時代を繋ぐ可憐な花

長福寿寺の本堂の手前には300坪ほどの紅花畑があり、春ともなれば可憐な黄色い花々が咲き誇って、馥郁<sup>ふくいく</sup>とした香りとともに訪れる人々の心を慰めています。かつて京都の町衆に持て囃されて全国に名を轟かせた長南紅花ですが、我が先祖の長南氏が戦国時代に武田氏によってこの地を追われて以来、その<sup>たおや</sup> 嬌かな花を咲かせることはありませんでした。

その紅花を再び長南に蘇えらせたのが、父の家系と今井家の、すなわち私と今井の出会いだったことを思う時、私は奇しき運命<sup>いたづら</sup>の悪戯<sup>まった</sup>、いえ 全き仏縁を感じざるを得ないのです。

先祖から伝わる「上総へ帰れ」の思いを貰って長南に移ってきた父は、同じ先祖の一派が山形で「最上紅花」を復活させたことを新聞で知り、忸怩たる思いを募らせていました。今井も実父から長南紅花の伝承を聞いていただけに、紅花のルーツの復活を願う義父の執念に心から共感を覚えておりました。

紅花畑は今、ボランティアの方々の熱い協力を得て、地域起こしの一端を担う名産として期待されるようになりました。紅花を入れたお蕎麦や紅茶も開発し、花ともども参詣者のお土産として購買されるまでになりました。また、地域の公民館などでは、紅花染めの教室も開かれています。

こうして蘇った長南紅花が、父や私たち夫婦の思いを超えて地域から日本全国に新しい文化を発信してくれることを願っています。

## 「和顔愛語」和と輪

私の人生を振り返ると、七転び八起きの連続でした。戦争による不安や敗戦・占領下の窮乏、戦後の復興と成長など、時代が



重なる人々と多くの経験を共有しています。しかし、私の人生の底には、先祖「長南氏」と、それに連なる船本家の運命が大きく脈打っている気がしてなりません。

平成27年9月19

日に船本家の祖父母、父母、伯父、伯母の総法要を執り行いましたが、それは私を生み育ててくれた父母、支えてくれた船本家の皆様に感謝申しあげるためでした。

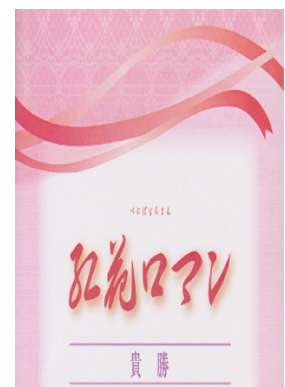
一方連れ合いの今井は長福寿寺の住職を息子長秀に譲り、山奥の長南町市野々の東光寺住職に就任しました。良寛さんのような<sup>ひょういつ</sup> 飄逸な老後が彼の理想らしく、毎日のように荒れた山々を整備し、さるすべりや萩を植えて、綺麗な山に生き返らせました。

私は「上総に帰れ」という古の言い伝えを背負って嫁に来たのです。だから、東光寺に行かず、長福寿寺に留まることにしました。今井も私の決心の堅さを理解してくれました。お互い、残り少ない日々を悔いなく生きたいと思っております。物事に拘らない自由人に育ててくれた夫、今井に感謝申し上げます。

「和顔愛語」和と輪になって過ごしましょう。

(岩手県大船渡生まれ、父親が船本音羽)

(大祭の境内でお会いした際いただいた、自著書籍「紅花ロマン」より一部抜粋)



だいしゅひつ こうし  
**中村就一先生の大手筆、囁矢には  
大変敬服いたしております。 長南一夫**

## 福島市の長南氏

私の郷里、福島市松川町浅川の集落及びその近辺には約40軒の長南姓がある。その内、阿武隈川に面した古浅川には立派な塀、門構えの旧家があり、名字帯刀を許され、広く農林業を営み、米、薪炭、木材を水運にて供出していたと思われる。もう一軒は旧奥羽州街道に面した若宮宿、奥の細道の松尾芭蕉が通ったであろう。やはり豪邸で農業を主に街道、宿場町の流通、物流で栄えたのでしょう。両家とも18～20代続いているとの事です。

浅川の草分け名主は長南出雲と名乗り、慶長～万治年間(1595～1660)年、関ヶ原の戦い、江戸開幕)浅川村六斗内に住んでいた。近くに小さな祠が今もあります。

「上杉様 上地六節は諸帳面長南出雲預置候也 延享元甲子年八月二日」の貴重な史料が残っている。

## 平安鎌倉時代の長南氏

平安時代、荘園は各地に拡大、地方豪族、武家、武士が起り、姓名は当地名より採ることとなった。平安時代、房総の系図に長南重常とある。鎌倉時代、鎌倉八幡宮領を寄進した長南孫四郎常行と記載がある(鶴岡八幡文書)。

長南の地は鎌倉幕府の配下となり、そこで兵馬を養い、“いざ鎌倉”の時は早急に駆けつける役目を負う事となった。その後は歴史の盛衰の流れに出会い、長南氏は陸路、海路にて、新天地を求めて関東、東北にひろがっていったと考えられます。

## 房総の長南氏

日本列島に、米作、青銅器、鉄器を持った弥生人が古代朝鮮半島から渡来族として、ながい年月をかけてさざ波の如く来島した。文字、古文書、神話伝説、都建設、古墳、土器、壁画、寺院、神社等の文化が残されている。古代日本の王族、豪族の姓、地名の多くは古代朝鮮に由来していると言われている。

関東地方には概して多くの古墳がある。長南町のそれは4世紀末に造成された。稲作、放牧、養蚕の産業が興り、水利、平野を利用して強大な勢力圏が形成された。

## 北緯49度にて



中国内蒙古にて

私は定年退職後、日本NPO砂漠緑化の現地駐在員として5年間に亘り、計約1年現地に滞在、たったひとりの外国人(日本人)として、完全なる中国語の世界にいました。夏は40℃、冬は-45℃苛酷な環境。無給奉仕で来ていると知れ渡ったせいか現地の人達は親切でした。私は初歩の中国語検定を有し、日常生活に不便はありません

でした。

日本から来て短期滞在する日本人の姓は、小沢(おざわ)はXiao ze(シアオズ)、竹内(たけうち)はZhunei(ズネイ)、鈴木(すずき)はLing mu(リンム)と呼ばれ、日本読みとは全然異なります。その点、長南のChangnan(チャンナン)は中国人に違和感なく自然に聞こえ、親近感あると言われました。それは、中国には”長”と呼ばれる地名、長江(チャンジャン)、長安(チャンアン)、長沙(チャンシア)、長春(チャンチュン)。”南”は南京(ナンジン)、済南(ジナン)、河南(フナン)などと多くあるからです。



文化街小学校での講義

## 永遠、永久



2200年前、始皇帝は徐福に3000人の船団を与えて、不老不死の仙薬を求めて洋上の旦神山、蓬莱島、桃源郷へ送り出した。他の中国古書にも同じ記載があるがあくまでも伝説です。

中国語“長”の古来からの意味は”永遠”、”永久”である。あなたの苗字は「中国発音で親しみがある」と中国の友人は云ってくれました。「幸運を呼ぶ良い姓である」と。

”長南”。昔むかし、はるばると、南から海を渡って来たのだろうか。

(横浜市在住)

### 参考文献

- 1『福島市史』昭和57年発刊
- 2『千葉県の歴史』1989年 三浦茂一 河出書房
- 3『千葉県の歴史』2000年 石井進 宇野俊一 山川出版社
- 4『新華詞典』商務印書館 北京 2001年

### 長南一夫

福島県生まれ

元日本NPO砂漠緑化現地駐在員(中国内蒙古自治区滞在)

元全日空機長

## 会費納入ありがとうございました。

長南 一男	北海道	3,000	長南 勝幸	福島県	2,000	森川 剛典	千葉県	2,000
長南 一男	北海道	2,000	長南 豊	福島県	3,000	長南 克夫	千葉県	2,000
長南 昇	北海道	2,000	長南 仁	福島県	5,000	田村かなさん	千葉県	2,000
長南 正道	北海道	2,000	長南 太一	福島県	4,000	長南 弘美	東京都	4,000
長南 勘一	宮城県	2,000	長南 武夫	茨城県	4,000	長南 章彦	東京都	2,000
長南 亀悦	宮城県	2,000	長南 幸雄	茨城県	4,000	長南 義美	東京都	2,000
長南 和夫	宮城県	3,000	長南 秀則	茨城県	10,000	斎藤 武夫	東京都	22,000
長南 征二	宮城県	2,000	長南 照光	茨城県	12,000	長南 昌幸	東京都	2,000
長南 慎一	宮城県	2,000	長南 国男	茨城県	2,000	長南 充浩	東京都	2,000
長南 政直	宮城県	2,000	長南 信雄	茨城県	3,000	長南 誠悦	神奈川	2,000
長南 サ力工	宮城県	3,000	長南 貴士	埼玉県	2,000	長南 一夫	神奈川	2,000
長南 俊蔵	山形県	2,000	長南 俊春	埼玉県	33,000	長南 光郎	神奈川	2,000
長南 正	山形県	3,000	長南 勇	埼玉県	2,000	西海 清	神奈川	3,000
長南 成	山形県	5,000	長南 邦年	埼玉県	2,000	坂上美智代	神奈川	2,000
長南 吉美	山形県	2,000	長南 亘	埼玉県	2,000	長南 恒弘	神奈川	2,000
長南 力	山形県	6,000	長南 仁志	埼玉県	10,000	長南 守	静岡県	2,000
長南 源一	山形県	2,000	長南 新一	埼玉県	4,000	白井ヒサ工	愛知県	2,000
長南 賢一	山形県	5,000	近藤 忠行	千葉県	2,000	長南 鉦一	滋賀県	3,000
長南 光	山形県	2,000	長南 誠一	千葉県	2,000	長南 喜善	京都府	2,000
長南 孝幸	福島県	2,000	長南 隆	千葉県	3,000	長南 忠直	奈良県	2,000

2016/06/20 現在 60人 232,000円

## 長南和泉守の活躍 中村就一著 長南氏の研究より

長南和泉守は1580年頃に生まれた。和泉守は菅原道真の11番目の子、善智磨ぜんちまろから30代目くらいに当たり、正式には長南和泉守すがわらみちもと菅原 道本 という名前である。長南氏が武田氏に征服された時(1456年)から100年以上になり、この頃、長南氏の大部分は安房里見氏に仕えていた。

1590年に、秀吉が小田原城を攻めて北条氏を滅ぼしたわけだが、これだけの大家が倒れると、味方していた千葉氏も亡び、房総地方の48城が、たちまち落城して徳川家康に降参したというから、関東地方の出来事としてはまさに有史以来の大きな事件であった。

この年、家康は関八州をもらい江戸城に入り、その5年後に秀吉が死ぬ。

秀吉の家来たちは、これからの新しい実力者としての家康につく者と、あくまで豊臣家の味方としてつくそうという人と2つに分かれるが、関ヶ原でこの2つの勢力がぶつかり合った結果、家康が勝ち、3年後には将軍となり江戸に軍事政権を立て幕府を開いた。



瑞巖寺栽松記念碑

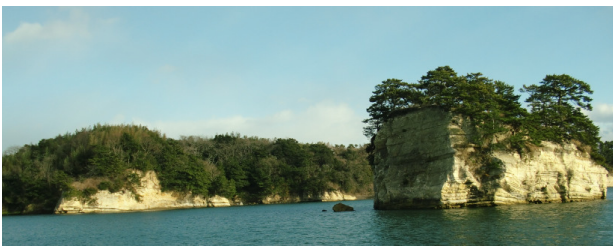
しかし、全国には、豊臣家が再び力を得てとよみひでより豊臣 秀頼 をもりたてて、秀吉時代の栄光の世に戻したいという勢力が強かった。これら新旧勢力の対決は時間の問題であった。

家康は天下に目をくばりつつ、折を狙っていたが、京都の方広寺ほうこうじの再建をめぐっていたがかりをつけ、大坂城へ宣戦を布告した。豊臣側は戦を避けたかったが、翌年家康の挑発にのり再び立ちあがり、これを攻撃するために家康軍は大坂城を包囲した。1615年大坂夏の陣である。

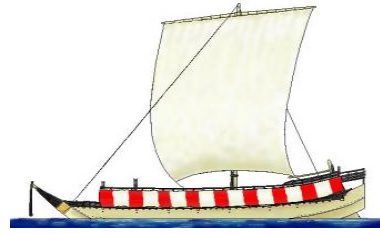
里見家に仕えて、裏水軍うらすいぐんの大將をしていた長南和泉守をはじめ、里見の家臣たちは、前年幕府によって主家里見氏が滅ぼされ、家康のやり方に反発していたので、豊臣方が家康に攻められると聞き、大坂へかけつけて西軍に加わるもののがかなりおり、和泉守もその1人だったが、大坂方はあっけなく敗れた。

和泉守は、もはや房総の地にいられなくなったので一家をまとめ、興津おきつという港から船で出航し、一旦今の茨城県、霞ヶ浦の青宿に寄り、数人をおいて北へ向かって松島湾さぶさわいまの最も外側の寒風沢島に着いた。

この島には、すでに里見の家来でここに来ていた人もありひとまず安全だったが、生活は苦難に満ちたものであった。約30名の大勢で、この小さい島にいつまでもいられないので一族は分かれることになり、東北地方の各地へ落ち延びて行ったのである。



この島に落ちてきたとき和泉守は、島の人の世話になり、隣の野々島ののしまとの間の海峡に船を浮かべ、船から寒風沢の島へ通い、がけを崩したり谷をうめたりして、3年目にやっと上陸して島のくらしに移った。



この間も、豊臣家から徳川幕府打倒に立上るといふ知らせがあったら、いつでもかけつけられるようにと、兜、刀などを使えるようにしていたという。

しかし、幕府の力は日増しに大きくなり、豊臣家を再び興すことはできないことが分かったので、和泉守は武士をやめて、得意の船を使ってこの地方の物資を江戸へ、江戸からの品物をつんで帰るといふ海運業を始め、これがうまく当たり、やがて生活も楽になった。

そこで、長男の茂左衛門もざえもんを石巻に分家させて同じ廻船問屋をはじめさせたが、これも時代の波にのり繁盛した。和泉守のあととりは奎之助もくのすけといい、幕府から浦役人うらやくにんに任命され、帯刀を許され寒風沢の港の仕事を監督していた。

1640年には、松島湾だて けにある伊達家と長南家の菩提寺である瑞巖寺うんごおしょうの雲居和尚から賞状をもらった。賞状は次のような内容である。

**「松には、赤松と黒松があるが、松島にはもともと赤松ばかりで黒松はなかった。ところが、寒風沢の長南和泉守が浜松地方から黒松の種をもってきて、ここの海岸や島々に植えてくれた。それが大きくなって島々浦々がみごとな風景となった。これは和泉守の大きな功績と言わなければならない。その後和泉守が法名をつけてくれるように希望したので裁松道本とつけてあげた。」**

すなわち、俳人松尾芭蕉や世の人々が松島を天下の名勝とたたえ、いまも松島が観光名所となっているのは、長南氏の祖先である和泉守がこうして松を植えたことも大きな力となったのである。

# 長南和泉守寒風沢渡来 400 年祭参加者募集



和泉守、36士墓改修記念式典

昭和40年7月、長南和泉守寒風沢渡来350年祭が行われ全国各地から50名ほどの長南氏ゆかりの人達が宮城県寒風沢島に結集し、盛大に記念式典が開催された。そして、平成15年9月には、和泉守と36士の墓が改修されたことを記念して、式典が開催されたことは記憶に新しい。また、この年の11月、松島瑞巖寺に栽松記念碑が建立され、除幕式が行われた。

その後13年の歳月が流れ、その間、あの大震災により、東北地方に甚大な被害がもたらされた。和泉守の墓は、高台にあ

るため津波から免れたが、沿岸の世帯は大津波の直撃により、家を失い仮説所生活を余儀なくされたり、島を離れた人々が多い。

今般、長南和泉守寒風沢渡来400年の機会に一族結集して、被災地を励ますとともに、記念祭及び瑞巖寺栽松記念碑参拝を下記の通り企画しますので、同封の返信はがきに参加希望か否か記入の上返送いただきたいをお願いします。

参加希望者多数の場合は先着順で締め切りになる場合がありますのでご了承下さい。

## 和泉守寒風沢渡来400年祭と松島瑞巖寺栽松記念碑参拝 (案)

1. 実施日 平成28年9月4日(日)
2. 募集人員 約30人
3. 会費 3,000円(潮陽館での昼食代として当日集金)
4. スケジュール

寒風沢島潮陽館集合	10:30
和泉守と36士墓参	11:00~
昼食と長南氏を語る会	12:00~
塩竈港へ市営汽船で移動	14:00~
松島瑞巖寺へ移動	15:30~
瑞巖寺栽松記念碑参拝	16:00~
解散	17:00

塩竈港9:30発市営汽船に乗船し、10:16寒風沢島着(600円)

帰りは14:08寒風沢発に乗船し、14:54塩竈港着

塩竈港から瑞巖寺には自家用車かタクシーで移動(約20分)

交通費、宿泊費等は各自ご負担願います。

**別添返信はがきに参加希望の有無をご記入の上、7月31日までに投函して下さい。**  
スケジュール等の変更があった場合には参加者個別にご連絡します。